



# 地方で得た学びと 思いを胸に

福井県総務部市町振興課

**喜久里 彩芳**

KIKUZATO Ayaka

平成27年 4月 総務省採用

大臣官房秘書課

平成28年 4月 自治税務局市町村税課

平成29年 4月 現職

## ■地方の現場で日々勉強の毎日

私は現在、福井県庁市町振興課で働いています。市町振興課では、行政グループに所属し、主に地方公務員制度の担当として、市町職員の給与や人事評価制度等についての助言や、総務省が地方の実態を把握するために実施する各種調査の取りまとめ等を行っています。国と市町を繋ぐ役割として、市町の状況を客観的に把握したうえで、国の制度を踏まえた適切な働きかけを行っていくことが求められます。「国の制度がこう変わったので、このようにしてください。」では、市町の職員の方々に納得はしてもらえません。「どんな風に説明をしたら納得していただけるか」「この市(町)だったらどのように制度を活用できるか」思いを凝らす必要があります。そのために、一旦立ち戻って、国の制度の趣旨や目指す姿を勉強し、一方で、各市町の個々の状況や抱える課題について分析する。制度づくりのその先にある、地方自治の現場だからこそ、日々勉強の毎日です。

## ■総務省だからこそできること

入省して2年目に所属していた自治税務局では、個人住民税に係る税制改正の、制度設計の一端に携わることができました。他省庁との折衝や、各政党での議論など、国ならではのダイナミックな業務に身を置く中で、その改正が、制度を実際に運用する地方自治体の、そのまた窓口の業務にどのような影響を与えるかにまで思いをめぐらせ、議論を積み重ねていく過程は、まさに、一人ひとりが地方自治体での勤務経験を持ち、その経験を生かして国の制度を考えていく総務省だからこそできることだと、身をもって学びました。そして何より、総務省の魅力は「人」にあると思います。地方自治体での出向経験を経て、それぞれの「ふるさと」を胸に抱く先輩職員と、全国から来られている自治体職員の方々が日々汗を流す、地方に対する「愛」と「使命」に溢れたとても熱い職場です。是非、一度総務省へ足を運び、話を聞いてみてください。きっと心に響く何かがあると思います。

## Question & Answer

### Q. 総務省を志望した理由は？

A. 大学時代に経験した被災地でのボランティアは、東京で生まれ育った私にとって、初めて「地方」に触れた経験でした。その活動の中で、地域において大切に受け継がれた美しい自然や文化、そしてひたむきな人の暮らしを守る仕事をしたいと考えるようになりました。加えて、できることなら一つの地域でなく、職業人生のなかでまだ見ぬ様々な地域に関わっていきたくて将来を模索するなかで、総務省に出会い、「ここだ!」と思いました。

### Q. 10年後はどのような仕事をしたい？

A. これから10年間の間に、地方を取り巻く状況や、地方を支える制度の内容は、大きく変わっていくのではないのでしょうか。その間どのようなキャリアを積んでいくかは、今の私には想像もつきません。ただ、福井県で学んだことを胸に、変わりゆく情勢にアンテナを立てながら、常に学び続ける姿勢を持つことで、10年後には何かの制度のスペシャリストとして、周囲から信頼される仕事ができたらと思います。



## Private Life

こちらに来てからは、愛車を手に入れ、県内のあちこちを訪れています。赴任する前はあまりなじみのなかった福井県ですが、美味しいものが沢山あり、季節ごとに様相を変える豊かな自然などなど驚くばかりです。また、県で出会った同世代の仲間と飲みに行ったり、旅行に行ったりして、福井での生活を楽しんでいます。